

平成25年度

「外部有識者会議」報告書



平成26年3月

福井工業高等専門学校

## まえがき

高専機構は今年度始め、全国の高専に対して教育の質・研究力を維持向上しつつ、教職員の負担減をはかることを求めました。予算の削減や15歳人口の減少など、高専を取り巻く環境が厳しくなる中であって、最善の解決策を見つけるべく努力しなければなりません。

戦後の高等教育の中で高専制度が唯一成功した例と言われ、国内外でも高く評価されていることを考えれば、これまでの来し方に間違いはなかったのではないかと考えています。また、今後も継続して社会の変化に対応しながら、優秀な実践的・創造的技術者を育成して行かねばなりません。

しかるに、昨今は毎年のように「改革」、「見直し」の声がかかります。しかし、短期的視点の、しかも財政面からだけでは、格物致知に達したと思えない議論が幅を利かし、間違った方向に舵を切る危険性もないではありません。教育は国家百年の大計であったはずであり、まず第一に教育面からの本質的議論が優先されてしかるべきであります。

多くの可能性を秘める高専学生の将来のため、教える側は常に学ぶ側の立場に立って、技術教育の内容・方法を見直す必要があります。一方で、人間教育も保護者や社会から託されており、これら両者が担保されてこそ高専の技術者教育であり、先進技術とグローバル社会に対応できる本当の意味での人材を育成できると言えましょう。

本校の外部有識者会議では、教育研究活動や自己評価等、学校運営の重要事項について審議・評価をお願いし、大所高所から助言・勧告を頂いており、大いに感謝を申し上げます。平成25年度は第二期中期計画の最終年度でもあり、5年間の総括とともに、次の第三期への目標を示させていただきました。

それらに対する今回のご意見やご提言については、本校関係者がしっかりと受け止め、今後の学校運営に反映させていきたいと考えております。

最後になりましたが、委員の方々におかれましては、多事多端の折にもかかわらず、本校のために多大なるご尽力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

福井工業高等専門学校長

松 田 理

# 目 次

|                        |    |
|------------------------|----|
| まえがき                   |    |
| I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則 | 1  |
| II. 外部有識者会議委員名簿        | 2  |
| III. 本校出席者名簿           | 3  |
| IV. 外部有識者会議日程          | 4  |
| V. 全体討論                | 5  |
| VI. 講評                 | 17 |
| VII. 参考資料              | 19 |
| 概要説明資料                 |    |
| ・教務関係                  | 21 |
| ・専攻科関係                 | 25 |
| ・学生指導関係                | 29 |
| ・寮務関係                  | 33 |
| ・企画関係                  | 37 |
| ・自己点検・評価関係             | 39 |

# I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則

平成16年5月13日規則第21号

改正 平成16年 6月 3日規則第23号 平成19年 2月 1日規則第 1号  
平成21年 3月30日規則第2号

## (設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校外部有識者会議（以下「会議」という。）を置く。

## (任務)

第2条 会議は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

## (組織)

第3条 会議は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

## (議長)

第4条 会議の議長は、委員の互選により定める。

## (会議の開催)

第5条 会議は、校長が招集する。

2 会議は、年1回以上開催するものとする。

3 会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

## (守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

## (庶務)

第7条 会議の庶務は、総務課が処理する。

## 附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

## 附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

## 附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

## 附 則（平成21年3月30日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

## Ⅱ. 外部有識者会議委員名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

にい はら こう いち  
新 原 皓 一 長岡技術科学大学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

いわ い よし ろう  
岩 井 善 郎 福井大学副学長

(本校の所在する地域の教育関係者)

とく しま やす ひこ  
徳 島 泰 彦 福井県中学校長会会長  
(福井市進明中学校校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

かつ き かず お  
勝 木 一 雄 福井県工業技術センター所長

(産業界の有識者)

みたむら とし ふみ  
三田村 俊 文 武生商工会議所会頭

(産業界の有識者)

つじ とし ひろ  
辻 利 博 信越化学工業(株) 武生工場長

(報道機関の有識者)

やま した ひろ み  
山 下 裕 己 (株) 福井新聞社 論説主幹 (参与)

### Ⅲ. 本校出席者名簿

|                                    |         |             |
|------------------------------------|---------|-------------|
| 校 長                                | 松 田 理   |             |
| 教務主事（副校長）                          | 上 島 晃 智 | （物質工学科教授）   |
| 学生主事（副校長）                          | 藤 田 克 志 | （機械工学科教授）   |
| 寮務主事（副校長）                          | 坪 川 武 弘 | （一般科目教室教授）  |
| 企画室長（副校長）                          | 田 中 嘉津彦 | （機械工学科教授）   |
| 専攻科長（校長補佐）<br>JABEE委員長<br>環境都市工学科長 | 阿 部 孝 弘 | （環境都市工学科教授） |
| 自己点検・評価委員長<br>電気電子工学科長             | 大久保 茂   | （電気電子工学科教授） |
| 機械工学科長                             | 加 藤 寛 敬 |             |
| 電子情報工学科長<br>総合情報処理センター長            | 斉 藤 徹   |             |
| 物質工学科長                             | 常 光 幸 美 |             |
| 一般科目教室<br>（自然科学系）主任                | 長 水 壽 寛 |             |
| 一般科目教室<br>（人文社会科学系）主任              | 廣 重 準四郎 |             |
| 図 書 館 長                            | 吉 田 三 郎 | （一般科目教室教授）  |
| 創造教育開発センター長                        | 津 田 良 弘 | （物質工学科教授）   |
| 地域連携テクノセンター長                       | 吉 田 雅 穂 | （環境都市工学科教授） |
| 教育研究支援センター長                        | 山 田 幹 雄 | （環境都市工学科教授） |
| 事 務 部 長                            | 根 本 直 之 |             |
| 総 務 課 長                            | 米 内 治   |             |
| 学 生 課 長                            | 清 水 久 己 |             |

## IV. 外部有識者会議日程

1. 日 時 平成26年3月11日(火) 13:30～16:45

2. 場 所 福井工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

### 3. 会 議 次 第

一 開 会

一 校長挨拶

一 出席者の紹介

一 議長選出

一 議 事

1. 本校の概要等説明等

一 休 憩 一

2. 全体討論・質疑応答

一 休 憩 一

3. 講評・提言

一 校長謝辞

一 閉会

### 4. 資料

① 平成24年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言

② 福井工業高等専門学校 平成25年度 年度計画進捗状況

③ 概要説明資料

<参考資料>

- ・ 自己点検・評価報告書(2014年3月)
- ・ 学校要覧 2013
- ・ 学生便覧(平成25年度版)
- ・ シラバス(本科, 専攻科)(平成25年度版)
- ・ 福井高専の歩き方 - 2014 College Guide -
- ・ 専攻科パンフレット 2013
- ・ JOINT 2013 -地域連携テクノセンター活動紹介誌-
- ・ 女子中学生向けパンフレット「みんなで高専しよッ！」
- ・ 図書館利用案内2013
- ・ 高専ナビ2013
- ・ キラキラ高専ガールになろう! 26年度版

## V. 全体討論

(岩井議長) それでは、先程ご説明頂いた内容あるいは配布資料等に関して、委員の皆様からのご質問、ご意見または感想等いろいろ頂ければ幸いです。ここからは委員2名欠けておりますので先生方、委員の皆様には十分な時間ございますのでよろしくお願ひします。

(辻委員) グローバルな人材育成を心掛けておられるという話を伺って非常に有り難いと思つたのですが、英語教育というのは従来のやり方となにか変わったところはあるのでしょうか？

(上島教務主事) パワーポイントの中にも書かせて頂きましたが、やはり従来どうしても読み書きに重点が置かれていました。確かに読んで書けることが必要でないという話では全然ありませんが、その場に出掛けて行って相手と意思疎通ができることも重要なポイントではないか、いわゆるコミュニケーションの手段としての英語教育という意味では、会話能力に少し重きを置く、そちらの方に全部という訳ではなく、それもできるようにということでございます。そこでネイティブの方の英会話を来年度からは少人数の教育の中で活かしていきたいと思つております。

そういうものを当て込んでいくとどうしても学習時間に制約が生じてまいりますが、そこで先程の説明にありました90分授業への変更が効いてきまして、従来と同じ4コマをやってもだいたい4時頃に終わりますので、その後の50分を、強制ではありませんが英語に限らずいろんな学習時間に充てたい。あるいは、進度の遅れている学生に対する補講のような時間帯に充てたいと考えております。そういう懸念のない学生には、課外活動に割り振れる時間を増やしたいと思つております。

英語教育に限ればいろんなやり方というのがあると思いますが、スマートフォンとかパッドを英単語の反復練習するための一つのツールとして使うとか、あるいはそういうものを自宅に居ながら学校のサーバーと繋いで行う等、将来の教材研究の中に組み入れた形でこれからやっていきたいというふうに思つております。

(辻委員) わかりました。

(三田村委員) 学科の基本的なことを教えて頂きたいのですが、普通、中学から高校に入りますと一般教養というのがありますが、大学も同じだと思いますが。一般教養というのはどの程度のことをやっていらっしゃるのですか？



武生商工会議所 会頭  
三田村 俊文 氏

(上島教務主事) 大学でも一般教養と専門という形で開講されておりますが、それと似たようなシステムになっております。一般教養はいわゆる専門ヤードに必要な数学や物理、科学のような素養、又は語学の素養。あるいはそれだけでなく社会系国語というものも非常に大事になってくると思います。シラバスの4枚目か5枚目のところに教育課程表が出ています。それが一般教養科目の課程表でございます。やはり1年生・2年生が厚く高学年、つまり専門にいくにしたがってだんだんそれが少なくなってきますが、5年生でもある程度の形を残しながらやっております。たとえば、憲法であるとかそういうものはどうしても大事になりますし語学なんかもこれは5年間一貫してやらなければいけませんので5年生になったら語学がないというわけでは決してございません。

(三田村委員) 質問の趣旨としましては、おそらく卒業生全体の4割ぐらいが就職されると思いますが、福井県の就職関係なんかを見ておきますと、それは受け皿の問題とか企業の問題等もあると思いますが、この学校を出られても県内で就職される方が少ないわけです。昨今、グローバル化はまったなしでございますし、それは当然やらなければ駄目なのですが、地方といいますか、われわれの郷土のことをきちんと考えることができ、そこで就職して働くという人材を育てていくことが僕は大事だと思っているのです。そういう意味で、グローバル化だからこそ地方の福井県の誇りとか、誇れるものを愛するもの、をなにかしら一般教養の中で教えられているのかなということをお聞きしたかったのです。

(上島教務主事) 大変、難しいご質問というか問い掛けですが、逆に、その地域との繋がりというのは、たとえば社会系の科目とかそういうのも確かに考えられますけれども、本校は地域との連携の中で、企業さんからこういう問題を解決してほしい、あるいはこんな問題があるのですがというお題をいただきまして、先程の説明にもあったと思いますが、創造型教育の中のテーマとしてそういうものを組み入れながら、それを企業の方々あるいはご質問頂いた方々にフィードバックをする。特に卒業研究という形になりますと、地元の企業さんとの共同研究もありますし、あるいは先生方の研究のネタとして引き受けて研究成果お返しするというのもございます。

(三田村委員) 私は、地方で就職する人がたくさん増えて欲しいと思っているのでそう申し上げただけです。

(上島教務主事) ちなみに今年度は6割が就職。そのうちの5割強が地元でございますから3割、全体の3割が地元に残っております。

(三田村委員) そうですか。

(松田校長) あと、やはり学生教育の中でインターンシップであったり、工場見学であったり地元の企業がどういうふうなのかを彼らに知ってもらう為のプログラムがありますし、専攻科では、ある企業のところからテーマをもらって創造デザイン演習ですか、そういうものを授業に取り入れる。その過程で企業の中身をわかってもらえるということをやっております。限られた時間の中で、どうしても高校から大学までの教養を修めないといけないうえに専門も修めないといけな。そうするとそういうインターンシップなり、あるいは見学なりというところで企業を知ること。それがキャリア教育の一環の中で知って

いくということになるかと思えます。

**(阿部専攻科長)** 創造デザインのお話が出ましたので、ちょっとご説明させていただきます。一昨年頃から少し中身を変えまして、いわゆる福井県で何か問題があるものはないかということを経験生に探させてレポートを書かせております。たとえば福井県の魅力UP策という課題に対しては観光資源を誘致する、あるいは企業を起こす、起こす企業をどうするかとかいうアイデアを出してきたりしています。それから、今年度は地元企業さんから、いろいろと課題を頂きまして、そこに還元できるようなことをしております。後期になりますと、鯖江市のオープンデータを使って何かいろいろやってみようということをやっております。ただこれもなかなか我々の方でそういう課題を見つけるのが難しくなってきましたので、ぜひとも地元企業の方々と連携してやっていきたいと考えております。

環境都市工学科の学科長として言わせて頂きますと、本科生の場合は潰れないところに行かせたいという保護者の希望が強いというのが実感です。学生から大手の方を言ってくると我々の方から地元の企業さんを勧めることは勧めております。が、やはりOBがいるような企業には先輩講座とかそういうところで人と人との繋がりでもって「ああ、自分はこちらに行きたい」ということになりますので、これからそのような人の繋がりをもって指導していきたいと思っております。

**(三田村委員)** 越前市でいいますと中小零細企業が多く、なかなか先行きを見通すことは非常に難しい。大きくなるかもしれませんが。そういったことがありますので、頑張って地方に人材を育てて頂けると非常に有難い。

**(松田校長)** そうですね。郷土愛を彼らに醸成するという形で、やっぱりやっていかなければいけないのかもしれませんが。

**(山下委員)** ちょっと関連してよろしいですか？今のお話でふと思ったのですが、福井大学にしても福井工大にしても、地元学生の割合がかなり増えてきているようです。聞いた話によると、福井工大は今や6割が地元の学生で県外は4割ぐらいしかいないというような状況ですから、そういう意味で保護者も含めて地元志向っていうのは今までよりもっと強くなるのではないかという気がしています。ですから、それに対する何らかの対応として、たしかに技術の面では世界と戦っていかなくてはいけない訳ですが、そういう地元を志向するとまではいなくても地域社会に貢献したいというマインドを育てるという教育が必要なのかなという気がしています。そういう意味で、越前和紙との共同研究とかいろいろやってらっしゃるとは思いますが、上級生になったときに、何か地域の課題に対してそれをどう解決していくかというようなアプローチというか、そのあたりから地元地域社会に貢献したいという学生を育てていくという、それをグローバル人材の育成とともに、そういう点にも目をつけていただくと有難いかなという気がします。

**(岩井議長)** 他にありませんか？今の三田村委員の質問の最初の部分は、高専の人材、育成すべき人材像というのは当然、実践的な技術者ということはよく分かるのですが、その前の段階としてのいわゆる1年生から3年生までの高校に相当する部分の教育が今日のご発表の中でもあまり見えてこない。それがどうなっているのかなということについてのご質問でもあるのかなと思います。もし、そういう関係の方がいらっしゃったら、育てる人材

像としてのその部分はこういう位置づけでやっておられるというのを、お聞かせいただけたとかなりの回答になるのではないかと思います。

**(長水一般科目教室主任)** 3年生までは確かに高校の内容も教えておりますが、どうしても高専5年間で大学の4年間、高校の3年間プラス大学の4年間に相当する教育カリキュラムが組まれておまして、私は数学を担当していますが、数学の2年生3年生あたりで既に大学の1年生2年生あたりの内容が入ってきています。私は福井大学の工学部の3年生の機械工学科の非常勤講師もしておりますが、そこで担当している応用数学Ⅳという科目が本校の4年生の応用数学とほぼ同じ内容になっております。ですから、三田村委員からのご要望というかご質問で、福井県ならではの一般科目教育というのは今後の課題かなというふうに認識しております。それから、高度化の話があったと思いますが、そういうところでカリキュラムをもう少し見直してそういった内容を取り入れていければとは思っております。

**(岩井議長)** 有難うございました。勝木委員は何かございますか？

**(勝木委員)** 大変わかりやすい説明をして頂きましたので去年も勉強させて頂きましたが、やはりすごいなあと聞いておりました。自分は高専を経験していなくて、高専を経験していたらもうちょっと違った人間になれたのではないかなと。

一つ言えば高専らしいということになりますけれども、今おっしゃられた数学の話もそうだと思いますし、いろんなことが5年間なり7年間のスパンで高専らしい教育システムを組まれてきた。それが実は高専らしいということであり、全国の高専が同じようにやっていらっしゃるのですが、今日お話を聞くと現在進行形でずっと工夫しながら積み上げていって創造的に改革して蓄積した結果が今の福井高専という形を作っているということがよく分かりました。もちろん文科省のいろんなこともあるのでしようからその制約の中でおやりになっているのでしようが、寮の話も含めて大変工夫されているなというふうに感じました。

じゃあ何かその中でとなりますと、今ほどご意見にもあったとおり地域貢献という話で言いますと、十分地域に向けてやっていらっしゃると思いますが、たとえば地域の伝統産業がまわりに点在しており、その伝統産業のど真ん中に福井高専があるという場所柄も考えていろんな取り組みされていると思いますが、例えば寮の中で、できるかできないかはいろいろありますのでアイディアのきっかけとしてちょっと話をさせていただきますと、寮の中で伝産品を、使い勝手や経費の問題もあるとは思いますが、正式のものを使っていたきたいなど。そして実際に使っていく中で、ただ作っているのをみて理解するというのではなく自分で使ってみるということで全然違った面が見えてくる。じゃあそれを2年間使ったたらどうなるのか。剥げてくる。剥げないように使うにはどうしたらいいの



福井県工業技術センター 所長  
勝木 一雄 氏

かとか。

他の話を続けますが、去年ちょっとクラシックコンサートがすばらしいという話をしましたが、やはりものづくりというのは生活者と繋がっていて、それは地の文化であり、国の文化であり人と繋がっていてそういうものの理解の上にもものづくりがあって、一つ伝統産業というのを例にとって申し上げますと、伝統産業というのは何百年という工夫の積み重ねであって、そこにはものすごく隠れた知識がたくさん詰まっています、それは地域に特化したものであって、それが他にない独自の技術なり、それがイノベーションの原石であったりしていくというのはみなさんも共通理解であると思いますが、それに気付く、その本質を知っているというのは非常に大事なことだと思っております。そういう意味での文化的な目を育てるといふのに繋がっていった創造的な学習に繋がるといいなあと思います。地域の理解が深まって、漆器をやっているところが原子力関連の最先端の材料を作れるということがございます。そういうことも分かって、なんでなんやという気付きに繋がっていく。30年も仕事してきてやっと今、自分が理解してきているというようなことが高専の教育のシステムを見てみると、高専ってひょっとして可能性をもっているんじゃないかなと、そういうことができる可能性があるんじゃないかなというふうに感じまして、何かそういうことを少しご検討をとまではいいませんが、心に留めておいて頂けたらおもしろいかなと思います。

もう一つ、教育目標の中にデザインという言葉が23年度もありましたし、今回の発表にも出ておりますが、デザインという言葉が出てくるのが素晴らしいなと、やはり理科系の教育の中で文化系とつなぐところでデザインというのが大変重要だと考えております。ぜひそのへんは広い意味でのデザインという教育を先生方もまた先生方の理解を通じて学生さんにどんどん植え付けて頂けたらなとふうに思いました。

(松田校長) 地元企業との連携ということに関連して、本校の地域連携アカデミアに参加している関連企業が今40社程あるかと思っております。その中で共同研究等を行っている先生が何人かおられますので、それをどんどん広げていく形で教員がそういう地域企業のいろんなことを知っていればそれが自然と学生の方に伝わっていくのではないかなというふうに思いますし、研究テーマもそれで増えていくんじゃないかなということもありますので、地域連携アカデミアの方も活発に利用していきたいと思っております。

(辻委員) ここの卒業生を迎え入れる立場として一言お願いをしたいのですが、今、高専生の置かれている立場といえますのは、ちょっと寂しいところがありまして、それは何かといいますとリーマンショック以降、就職難が続きまして長い低迷期を迎えております。その中で、採用が厳しいのでいろんな大学からい



信越化学工業株式会社 武生工場長  
辻 利博 氏

い人材が山ほどやってくるようになっていきます。我々の会社にも東大、京大をはじめとして有名大学のしかも修士・博士がいっぱい入ってくる。そういう中で、一人前の技術屋として我々がやってきたことをしっかり受けて、議論ができるようになってもらいたいのですが、どうしても萎縮してしまうところがあります。そこで、たとえば就職をして5年あるいは10年経った卒業生に、仕事するうえで高専の特にどういうことを勉強すればよかったとか、こうした方が卒業した時に力になるとかいうことをぜひ聞いていただきたい。それを的確に取り入れるかどうかは別にして、例えば、いい点を持っている人がいるのであれば、それを呼んで特別講義で話をさせるとか、夏休みとかにそういう機会を利用してやってみてはどうかと思います。実際に我々の会社も製品の7割は輸出です。製品の半分は海外で作って海外に行く。25%は国内で作って海外へ行く。残りが国内向けです。だから、どちらかというところと日本の中で採用の枠をどんどん広げていくというのは非常に難しい。会社の規模を大きくするなら、やはり売り先である海外で工場を造って、そこで人を採用するというふうにしてはどうしてもなっていく。その中で基本的な技術ベースはきちんと日本に組み込んでいきたい。その技術をしっかり守りながら海外展開をしていくというのは当然議論になるので、そういう人材として卒業生の人たちにも頑張ってもらいたいと考えると、やはり技術的な議論がきちんとできること、グローバルに向こうに出かけて行って話ができてきちんと技術を伝えて製品として立ち上げられることが非常に重要だと思います。そのために、技術的なベースに大学もなければ別に学部だろうが修士だろうが関係ないので、高専を卒業したという誇りと自信をもってしっかりと自分の検討した内容を議論できる、そういうふてぶてしさを持つためにはどうしたらいいかということを考えてもらえれば有難いと思います。

**(松田校長)** 貴重なご意見有難うございます。

**(上島教務主事)** この表紙にもありますとおり、本校は再来年に創立50周年を迎えるということで、一期生いわゆる初期の卒業生のみなさんは第一線をリタイヤして、ある意味フリーな立場で地元に戻ってきていらっしゃる方が非常に多いです。そういった会社の中に長らくいらっしゃった方々にお話しを伺う中で、今、辻委員がおっしゃられたような会社のいろんなノウハウ、あるいは生きていく上で何が必要、何が大切だったのかというようなことをぜひ学生に教えてほしい。いわゆる先輩講座というようなものを取り入れていきたいと思っております。そういった先輩方に聞きますと教えるんじゃなくて一緒に遊びにいきたいからぜひそういった場が欲しいという声をいただいておりますので、ちょうど有難いお話をいただきましたので、なるべく急いでそういうふうな形、会社の酸いも甘いもかみ分けて終わられた方にぜひ人生のノウハウをというふうな形で実現させていきたいと思っております。

**(辻委員)** 一言お断りしておきますが、リタイヤした人たちの環境というのは非常に良かったのです。例えば、今45歳以上の高専卒の方たちはものすごくがんばって第一線で活躍していますし、活躍できていたんですね。これは会社の問題もありまして、失敗ができなくなってきた。昔は、失敗しながら教えたんです。それともう一つは、学卒もみんな同じだという考え方で技術ベースも同じところから始められたんです。会社がやっていることは

大卒だろうが高専卒だろうがみんな同じところから始めて一線でスタートできたんです。ところが、だんだん専門性が分かれてきて、一線で一緒にスタートできるということがだんだんなくなってきたんですよ。ですから、この5年10年ものすごく環境が変化していますので、今働いていて5年経った、あるいは10年経った人達の話聞く機会をぜひ設けたらいいと思います。それを企業に協力を求めれば、誰でも平日だろうがなんだろうが「お前3時から行ってこい」というのは全然問題がないと思いますから、これはやらせてもらいますよ。ぜひそういう形で本当の先輩の、実際に一度声を聞いてもらった方がいいと思いますけど、その上で判断されたらどうですか？

(上島教務主事) 分かりました。

(辻委員) いいと思います。

(三田村委員) それは、いいですね。

(岩井議長) 大変貴重なご提言、それをぜひ実現の方向に向けて、またお互いにご検討頂ければと思います。他にありますか？



株式会社福井新聞 論説主幹  
山下 裕己 氏

(山下委員) 私も委員を何年もやって参りまして、非常に頑張っているのは重々承知で、却って先生の方は大丈夫なのかとちょっと心配している部分もありますが、一つだけ言いたいのは、図書館も新しくなるということですから、一般教養のことにも関係するかもしれませんが、今、子供の読書不読率、毎月本を一冊も読まないという割合ですが、小学生でしたら10%未満なんですね。中学生で30%ぐらい。高校になると半数近くなんですね。全国からすると福井県はまだちょっと読んでいる方ですが、二人に一人は1か月に1冊も本を読まないというのが現実です。我々、特に活字の世界で情報を発信している側とすれば、やはり高校生の段階である1年生から3年生のあたりで、やはり図書館等を利用して本を読んで、そしてそういう人間性とか、理数とは関係のないところの教養を身に付けるというのは非常に大事だと思うのです。だからそういうところをせっかく建物も新しくなったことですので、きっかけにして少し子供たちに本を読んでもらうという習慣を付けてもらえると有難いと思っています。

(松田校長) 有難うございました。

(岩井議長) どなたかそういう関係の先生がいらっしゃったらご回答頂けますか？せっかく大勢の先生が集まっていますので。

(吉田図書館長) はい。図書館の活動の中で、不読率に関しまして一つは学生達に興味の持てる書物がありますよというふうなアピールも必要と思っております。まず新入生に対しては図書館のガイダンスがあります。通り一遍のものですが、だいたい1時間の授業の中で国語科の先生の協力もありまして行っているものです。本を読むジャンルに関してはこれも国語とのリンクもありますが、夏場に読書感想文というのをやって詩やいろんな散文等

の創作を含めた課題を出しておまして、若干人参もつけまして、出すと国語の評価に繋がるということもあるんですが、そういう形で年度末に「青樹」という冊子にして出しています。そこで見ると意外と純文学というか、そのようなものを読んでいての感想があがってきたりとかいうこともあったりします。それで、自分のまわりが何を読んでいるのかということ伝える意味も含めまして学生全員に配布をしておりますが、その時期がちょうど2月の試験の時期に当たることもあって形式だけになりがちなので、もっと内容を広めるように検討していきたいと思います。

あと書物の中身に関しては本校の後援会等々の協力もありまして、学生達が自ら書店に出向いて自ら興味に沿った書物を買ったりするお金があります。これは他高専なり他県の大学等にお話ししますと「それはうらやましいですね」と言われることでもありますが、そういうブックハンティングの量とか質とかも充実させていって、こういうものもあるよという校内でのPRにも努めたい。現在、図書館に足を運ぶ人数はほぼ同じぐらいで若干増えているところもありますが、リピーターなのか、不読率の絶対数としては把握しておりませんので、ご意見頂戴いたしましたので、液晶画面から活字と紙の方に目が向くようにぜひ再度検討していきたいと思います。

(岩井議長) よろしいですか？

(山下委員) はい。

(岩井議長) それでは、時間がきておりますが最後の講評というのは、今この中でせっかく議論が進んでいるので簡単にさせて頂くとして、少し私の方から全体としてお伺いします。

毎年こういう自己点検をされて、そして外部の委員を集められてこのような会を催されることは大変ご苦労なことだと思いますし、その点については高く評価されることであると同時に敬意を表したいと思います。ご発表頂いた内容はいずれも、これはやっぱりすごいねと思うのが大多数ですけれども、あえて

申し上げるとすると、それぞれの高専さんは国立高等専門学校機構の中に入っておられるので、少なくとも最低これだけはやっておかななくてはいけないというのがあってそれを越えるための努力がかなりの部分を占めていて、そのためにかえて個性とか特色とかが見えない部分があるのではないかというふうに思います。その中で今日、自己点検でAと評価頂いているものがひょっとしたらこれはSじゃないかと、逆にこれはBじゃないかというメリハリといいますか、そこを教えて頂けると、こういうところで頑張っておられるということがより分かり易いと思います。どなたか控えめにAと付けたけれども本当はSと付けたかったというようなご意見があったらぜひ頂けると私はいいかと思います。



福井大学 副学長  
岩井 善郎 氏

(大久保自己点検・評価委員長) 国際交流関係は、非常にアクティブにやっておりますでSでもいいかなというふうに私は思っています。

(岩井議長) 私も高専の学生のみなさんがこうやって自発的に行かれているのであれば、これは大変素晴らしいことだと思いますし、元々そういう仕組みがないものを作り上げられた、あるいは、タイに行かれて交流協定を結ばれたというのはこれはすごいことだと、そこは尖っているというふうにおっしゃっているのかなと思います。併せて、たとえば志願倍率とか福井県内の志願者の割合、あるいは逆に卒業したあとの就職する割合と進学する割合とかですね、何かそういうものが他の高専に比べてここは平均値から外れているとか特に大きいとか小さいとか、何かそういう視点もこの中に入れて頂けるとすごく福井高専というのはこういう高専なんだなというのがわかるような気がしましたけれども、そのへんはいかがですか？

(上島教務主事) はい。今お話頂きました進路に関して申し上げますと、現在は就職が6割、進学が4割という状況ですが、リーマンショックの前あたりまでは、実はこれがまったく逆転しておりました。それで、その時我々が何を心配していたかと申しますと、高専の設置の目的といいますのは技術者を育てることで、大学の進学校ではない。地元あるいは企業に貢献することが大きな目的の一つですよということで、このまま進学率が伸びていったらどうしようかと心配しておりました。ところが、リーマンショックがきっかけになったかどうかはわかりませんが、今度はこれが見る間に逆転しましてほしい6対4のところまで落ち着いているかなというふうに考えております。基本的に、高専は企業が求める人材を輩出することが元々の設置目的であります、教育の多様化あるいは進路の多様化というのを見据えますと、必ずしもそれが100%ということにはならない。それを考えますと概ね五分五分あたりを標準にしてその前後というところがいいところかなというふうに思っております。全国の高専の中には、ご存知かどうかわかりませんが、9割近くが進学をしている高専もございまして、また別の高専では就職の割合が多いんですが残念ながら地元で10%も残らないという高専もございまして。そういう意味で、地元で卒業生全体の3割、就職組の5割強が残れる素地がある、あるいは地元で学生の目を向けさせるよう、我々は努力しないといけませんし、我々自身は努力していると思っております。逆の視点、特に地元の企業さんから見るとそれはいかにも少ない。もっと上げてくれというオファーがあることは重々承知しております。そういうところで、いい評価、悪い評価メリハリをつけてとおっしゃられますが、押し並べるとこんな評価になるのかなというふうに思っております。なかなか難しいところがございます。

いつの時代でも我々が丸となってやらなければならないのは学生のモチベーションを5年間保たせて、なおかつ生きていく力をもって企業に送り出すことであり、それをするためにはどうしたらいいのかをいつも我々意識しながら、しかし後手に陥りがちな部分でもあります。先ほど学生支援の話もありましたが、支援室を立ち上げなければいけない、あるいは支援の手を差し伸べなければドロップアウトするという学生が増えてきたことは紛れもない事実です。そういう支援をしなくてもいい状態に保つことが我々の努力だとは思いますが、その辺りは言い換えるとまだまだB、もしかしたらC評価かもしれないと

いうふうに思っています。

**(岩井議長)** 今ほどおっしゃった、ある程度の数値目標みたいなものは右肩あがりが必要でもないとは限らないとは思っております。だから適切なあるいは適正な数値というものがある、うちの高専はこれを目指すんだという何かコンセンサスが得られるのならそこはそれでいいと思います。じゃあそれに至らない他の事象に対してはどうしたらいいのかという何かそんなこともある程度は必要じゃないかなというふうに思います。

次は、校長先生は就任1年目ということでこういう活動をされているのか分かりませんが、私の周りにも高専に勤めたいという若い人がいますし、実際に職を得た人もおります。そういう彼らは、やはり教育ももちろんですが研究もしたいという思いがあって高専というものを自分の就職先として選んでいるのだと思うんです。そういった中でこれだけ多くのことを行うと、若い先生はたとえばコンテストでものりがいいですから彼らに任せておけばそれなりのことをやってくれるのはあるんだと思いますが、たぶん若い先生にかなりのしわ寄せがいつているのではないかと危惧します。そうなったときに校長先生が、たとえば若い教員を校長室に呼んで意見を吸い上げるという、何かそういうようなことをやってらっしゃるのかどうか、彼らをどうやって最初に高専職を得たときの思いを持続させるかというようなそういう活動というか配慮も必要なんじゃないかと思うんですが、その辺はいかがですか？

**(松田校長)** これは規則に決まっております、少なくとも毎年1回は、必ず教員と話し合っ  
て意見を徴しないといけないというふうにはなっております。しかし、そういう形式的な  
こととは別に、やはりフランクにいろんな形で話し合いたいというふうには思っています。  
ただ、今しがた岩井先生がおっしゃられたことに関してちょっとどうかなと思うところが  
ございまして、実は、今まで高専の使命というのは第一に学生教育で第二が研究であり地  
域貢献だったのですが、それが第一と同じくらいに研究をやりなさいという位置付けにし  
たいという意向も高専機構の方としてはあるように思われます。そうしたときに、では今  
までの高専教育として非常に高く評価されている学生教育なり、公開講座なり、地域貢献  
などいろいろな形で学生教育をしているわけですが、それが果たして担保できるのか。例  
えば大学の先生も24時間、高専の先生も24時間ですからどこに力をいれないといけな  
いのか、果たして高専は地域の皆様方がどういう形でミッションを求められているのかと  
考えた時に、じゃあ研究の方にずっとシフトしていいのかというような疑問も、私  
自身は今持っています。少ないですが、何人かの先生方と話したときにやはり高専は第一  
にあるのは学生教育なんじゃないかと。それから、去年ですか、麻生財務大臣が戦後の高  
等教育の中で一番成功した例は高専だと、岩井先生の前でなんですが、そういうふうに明  
言をされておられます。そして国外からも高専教育を習いたいといっているということは、  
やはりこれまで我々がやってきたことは間違っていないんじゃないだろうかと考えて  
います。ただやはりそのままではいけないので、いわゆる社会が進歩してきた中でそれな  
りに変化をしていかなければならぬと思いますが、これは私見ですけども高専はやは  
り教育をまず主にしなくてはならないのではないだろうか。その教育をアシストするため

の研究、あるいは教育の幅を広げるための研究をしていくべきではないだろうかという  
ようなことは私自身思っております。

**(岩井議長)** その辺については福井高専の中でのコンセンサスだと思いますのでどうぞ議論を  
尽くして頂くのも必要かなと思います。その中で大学も同じですけど、やはり教育が主  
で研究はその次に近い話ではあるんですが、教育にエネルギーを注げるようなその気持ち  
ですよモチベーションというのは。あまりいい言葉かどうかわかりませんが、そういう  
ものが出てくるのはやっぱり研究をやる余地があるというところではないかなと私は  
思っていて、今どんどんお金がなくなっていく中で、そういうのでは研究費はできませんよ  
と、あるいは学生の面倒もえらくあって時間をとられますから先生方、研究をやらなくて  
もいいじゃないですかみたいなものがでてくると、もうこれは去年の評価のところでもお  
話がありましたが、やはり先生が輝かないと。輝かない先生の下では、やはり学生も輝か  
ないということで、ぜひ非常にリソースあるいは研究資金も、福井大学も潤沢ではありま  
せんが、高専はもっと環境としては良くないかもしれませんが、その中でぜひ頑張ってい  
ただきたいなと思います。そういう意味で、科研費がV字に上がったとお聞きしたので大  
変それは先生方のモチベーションというか研究をもう一回やらなあかんというからそう  
なったのかわかりませんが、その辺りはどうですか？田中先生。V字に上がったとおっし  
やられましたか、何か方策をとられてようになったのか、たまたまなのか。もし何かやられ  
ているのであれば大変結構なことですが。

**(田中企画室長)** ご指名でございますので、私が答えていいか判りかねる部分もありますが私  
の知る限りについてお話しさせていただきますと、研究は先ほどからお話にでています通  
り、最先端の教育を施すための一つのツールであるという認識は等しくみなさんお持ちだ  
らうと思います。そういう中で研究する時間をいかにして確保していくかというのは、  
個々の教員の努力によるところもありますが、新しい研究を始めるにしてもなかなか資金  
面で苦労されているというのがそれは本校のみならず共通して言えることだと思います。  
とにかく高専制度が世の中で世界的に高く評価されつつある中で、このまま存続してさら  
に成長を遂げていくうえで研究というのは必要不可欠という認識は、等しくみなさんがお  
持ちだろうと思いますがなかなか実が伴わなかったというのが現実問題としてあると思  
います。そういうふうな中で本校といたしましても、かねてから科学研究費補助金の採択  
実績を豊富にもっておられる教員もおりますので、その人を中心にして実際に申請書を出  
す前に内部で点検・アドバイスなんかを頂くような制度を構築するとともに、外部の方で  
科研費の審査員、採択審査員をなさった方を招聘して講演会を開催したり、申請書の書き  
方のコツといいますかそういうふうなものをご指南頂いてきたことが、大きくはないにし  
ても少しずつ実を結んできた部分が直近になって表れてきたのではないかなというふう  
に思っております。

**(議長)** 先々代の校長先生は非常に熱心だったというふうにお聞きしておりますし、今、国立  
大学では全員が科研費を出すことがほとんどの大学で原則となっております。福井大学で  
も休職されている方以外は、忙しいからとか他に大型の助成金をもらっているからとかそ  
ういうことは一切考慮せずに全員出すと。出さない人に関しては、もともとの研究、基盤

経費はそういうことを前提にして配分されているのであるからその分はお返し頂きますということで個人あるいは学科からリターンしてもらう制度になっており、工学部では本当に僅かな方を除き出せる人は全員出しています。もちろん定年前何年かの先生はもう該当しないとか除外されている先生は別ですけども、それ以外は工学部に関しては100%申請をされています。そうすると、出す以上は採択されなければ意味がないので、そうすると業績欄が埋まらなると駄目だとかですね、単にそのまま研究を計画に従って書くだけでなく、一ひねりもふたひねりも研究をリバイスしないといけないというようなことになりまして、結局、研究の高度化に繋がる。それは先程から話が出ています地域のニーズに沿ってそういう研究テーマを見つけるとか、何か高専は高専なりの研究テーマがあって、それに対して審査員は、一律に見ているわけではありませんので、何かそういうこと、あるいはそういうコツを見つけた先生が高専の中にも何人かいらっしゃると思います。そういう活動をやっていただければいいと思います。

(校長) はい。有難うございます。そういうことで第三期の中期目標の中には本来理想的な、100%科研費を出すと言わなければならないのですが、少しずつでも上げていきたいというふうに思っております。そういう科研費を申請するということは、元来は自分のライフワークを少しずつスキルアップしていくいろんな新しい研究に手をかけるということになりますので、先ほど教育の方を主と言いましたけれどもそれは決して研究をしないということではないので、研究をやらないといけないということはエフォートというか時間の感覚としては、どちらがメインかということになるだろうということの話なので、先生のおっしゃる通り、本校の教職員にもそういう意気込みで出してもらいたいと思っております。有難うございました。

(議長) それでは、大分時間が押しちゃっていますが、一応、講評の準備をしないといけないものですから、しばらく別室に移らせて頂いて、また戻ってまいります。

## V. 講評

### [岩井議長]

別室でどういうふうに最後の講評をするか相談いたしまして私に一任ということになりました。先ほど申し上げたのが講評に近いですが、改めて講評させていただきます。

先ほど申し上げましたが、自己点検評価を毎年このように丁寧にされていて、それを次の年度の活動に反映されていることに対して、高く評価をするとともに敬意を表したいと思います。特に昨年度のこの委員会をお願いというかこういう点を更に伸ばされるといいというふうに申し上げたいいくつかの点に関して、活動を活発にされたということに対しては大変委員としても嬉しく思います。特に先ほどお聞きしたグローバル化の取り組み、数は非常に少ないですけども、何名かの学生さんが海外に出かけて行って活動された。それを指導された先生方のご苦勞を考えるとこれは高い評価で、まさにS評価でもいいのかなと思うくらいであります。また、今日お話し頂いた、例えば女子学生の入学への取り組みだとか寮の取り組みだとか、いろいろな活動そのどれもが評価に値するものだと思いますが、今回の中で言いますと、先程のような指摘を次年度に繋げていただけたらいいかと思えます。

まず一つは、やはり福井高専が福井に、鯖江のこの地にあるということを学生たちにしっかり学んでもらいたい。それは福井で就職するとか福井のために貢献するとかということだけではなくて、ここで5年間あるいは7年間学んだということが、今後の自分の人生に活かされるという、そういうことが大事であり、そういった中から地元企業に残って地元の為に働こうという若者が出てくるのではないかとということが委員の一致したお願いでありました。一方、高専の使命というのは、やはり高度専門技術者、実践的な技術者を育てるということであるならば、そういったOBに来てもらって、いろんな学生に体験談を話してもらうことが大事であるし、そのことの成果は大きいだろうというふうに考えます。ところが、その時代がどんどん変わっているんで、先ほど出ましたように、もうシニアになった人たちに、その自分たちの成功談を学生に伝えるだけではなくて、今まさに働いている30代ぐらいのOBがどういうことで悩んでいるのか、あるいはどういうことを学生時代に学んで卒業すれば、大学卒あるいは大学院卒の人たちに交じってもまったく劣らないような技術者としての力を発揮できるのか、そういうことを伝えてもらいたいということが意見としてございました。また、これは産業支援センターの所長さんの立場から見ると、やはり起業、いわゆる起こす企業ですね、福井高専のOBの方々が福井の中でずいぶんと起業をされている。そういう人たちの存在というのは大きい。ぜひそういう人たちの意見も聞いて、そういうスピリットも育てていただきたいと思います。

一方、これは私からの意見ですが、先ほども申し上げたように、どうしても高専の中期目標・中期計画すべての項目が出ますのでそれを網羅しないといけないという呪縛に我々も含めてかかっています。これは大学でもまったく同じことです。その中で評価のために少なくとも減点をされないレベルのところまでは達成しないといけないということをみんなが感じていて、そのために極めて総花的になっている部分と、あるいはチャレンジできない部分

があり、そのことがかえって個性がなくなるとか特色がなくなるといようなことを、日々私自身も感じております。そういうことで、少し尖った部分、先ほど申し上げた尖った部分は研究だけでなく教育でも、あるいは学生への指導でもそうだと思いますが、何かそういった尖った部分を活かせばいいのではないかと、それがなんなのかはよくわかりませんが、きっと鯖江市や越前市にある伝統産業の中に、あるいは技術力が集積する地域の中にある高専という、そういう位置付けというのは非常に今後の展開を考えていくうえで大きなポイントではないかと、それは次の中期目標・中期計画の中に少しでも反映されれば私たちとしては大変嬉しく思います。

以上、全体としては大変どの取り組みも素晴らしいし、どこの高専と比べてもたぶん引けを取らない立派なものだというふうに思いますが、あえてこういう会を開いて頂いたことを次の計画に反映させていただけるのであれば、今申し上げたことを少し勘案して頂ければ幸いと存じます。

以上、最終の資料にされるときには、ただいま申し上げましたことを上手に汲み取って、まとめて頂けると有難いですし、それを活用して来年度の評価に向けて活動を開始されれば大変有難いと思います。

## VI. 参 考 资 料



## 教務関係

\* 総論

\* 入学  
\* 教育  
\* 進路



## 基本理念

1. 創造性豊かな人材を育成する。
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。



## 養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、

国際社会で活躍できる技術者



## 本科(準学士課程)学習・教育目標

- RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- RB 数学とその他の自然科学、および専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
- RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
- RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。



## 教育制度における5年間のPDCAサイクル

- ・基本理念、学習・教育目標の見直し
- ・アドミッションポリシーの改訂(機械工学科)
- ・シラバスシステムの充実
- ・エビデンス(成績評価資料)の保管と活用
- ・学生アンケート(授業・教育環境)等の定期的実施
- ・FD活動の充実、公開授業の実施
- ・教育点検評価システムの確立
- ・達成度の自己評価導入
- ・進路指導の充実

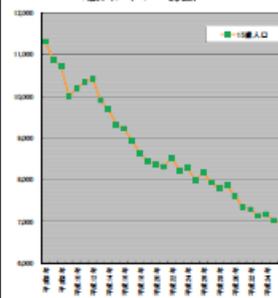


高専教育の高度化への検討

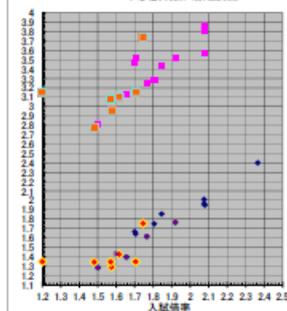


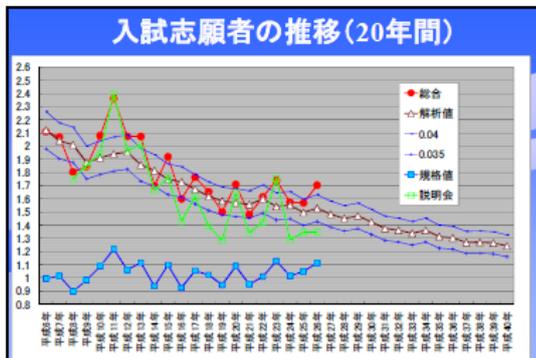
## 15歳人口と入試説明会

15歳人口(1/1現在)



入試説明会人数増減





- ### 入試関係の取組
- 入試に関する新入生へのアンケート調査
    - ◎不況に強い高専！ 進学に有利な高専をアピール
  - 入試会場の整理統合
    - 芦原会場の福井会場(アオッサ)への統合
  - 志願者確保のためのPRの活性化
    - カレッジガイドのデジタルパンフ化
    - ◎ 学生視点の情発信サイトの新設
    - 女子中学生向けのPRパンフレット作成
  - 入試関連行事の見直し
    - ◎ オープンキャンパスの充実(5・8・10月)
    - 女子中学生対象の理科系啓発イベント継続

### 入試行事①: キャンパスウォーク

5月11日(土): スタンプラリー形式校舎・施設の見学会

参加: 計597名(生徒388名)

### 入試行事②: キャンパスツアー(体験入学)

8月3日(土): 学科紹介・体験コーナー、交流コーナー

参加者: 計680名(生徒444名)

### 入試行事③: キャンパスリサーチ(学科別体験)

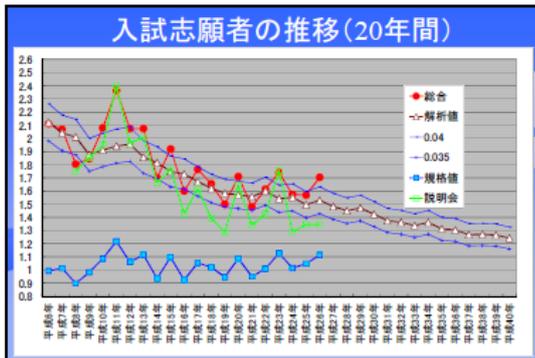
10月12日(土): 各学科別に1時間の体験学習会

参加生徒: 計222名

### 入試行事④: 入試説明会

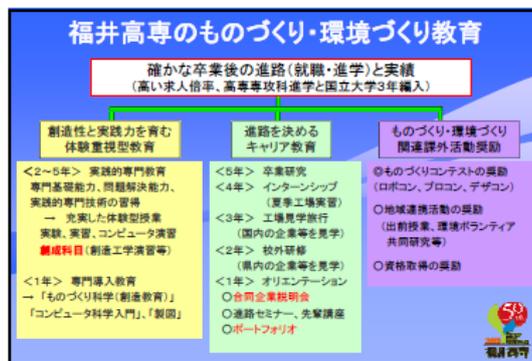
10~11月 福井県内11回、滋賀県内5回実施

その他: 各中学校主催の説明会に参加(16校)



- ### 教務関係の改善取組
- 平成17年度: 工学基礎コース制度開始  
大学評価・学位授与機構機関別認証評価受審
  - 平成18年度: 100分授業開始・学修単位の導入  
JABEE中間審査受審、学習到達度試験開始
  - 平成19年度: 創造教育開発センターの設置
  - 平成20年度: 50分-7限体制開始、校舎改修工事開始
  - 平成21年度: JABEE継続審査受審、校舎改修工事完成  
新型インフルエンザへの対応
  - 平成22年度: 達成度評価の導入
  - 平成23年度: 特別支援室の導入、国際交流の活性化
  - 平成24年度: 認証評価・JABEE中間審査を受審
  - 平成25年度: 90分授業・学習強化時間の導入決定、  
図書館・テクナセンター改修工事完成予定

- ### 教務関係の取組
- #### 人財に育つ人材を育む
- 原子力人材育成教育の継続  
経産省並びに文科省の原子力人材育成プログラム
  - 長期技術者育成アドバンスコースおよび三機関連携プロジェクトの運用開始
  - 機関別認証評価・JABEE審査受審  
養成すべき人材像の制定、達成度評価シート等の活用
  - 特別支援教育への対応  
特別支援室を拡充し実運用を開始(適用事例: 3名)
  - 起業家人材育成のためのプログラム  
高専連携の特別研究経費で育成支援  
企業人材活用プログラムの実施
  - 国際交流活性化に向けた取組  
タイ ソンクラーク大学との交流協定締結と学生交流  
海外からの短期留学生の受け入れ
  - e型人材の育成に向けた取組  
Outputの側から必要とされる知識・技術を考える



### 経済産業省と文科省の「原子力人材育成プログラム」

#### 福井高専原子力地域人材プログラム

<原子力関連機関・大学等と連携した共同教育プログラム>

- ①エネルギー一校外研修
- ②インターンシップ
- ③特別講座
- ④特別講演会
- ⑤フォーラム
- ⑥出前授業

原子力分野への就職状況

研修風景: 若狭湾エネルギー研究センター

### 卒業後の進路(就職と進学)

#### 進路指導室 → キャリア支援室(組織替え)

- 高い求人倍率(平成24年度: 17倍)により就職内定率100%
- 37%が進学(専攻科と大学編入学)、55%が推薦で合格

#### 卒業生の進路(平成24年度)

進学 38% (41%)  
就職 2% (5%)  
推薦 60% (64%)

内、推薦就職が34%

#### 就職内定率の変化

## 卒業後の進学状況(平成25年度)

- 国立大学3年へ編入、高専専攻科への進学が可能(推薦が55%)です。
- 専攻科からは大学院へ進学(推薦枠等)できます。

### 平成25年度入学状況

#### 本科卒業 — 高専専攻科

- 福井高専専攻科(17)
- 神戸高専専攻科(1)

#### 専攻科修了 — 大学院

- 金沢大学大学院(2)
- 福井大学大学院(2)
- 名古屋大学大学院(1)
- 豊橋技術科学大学大学院(1)
- 北陸先端科学技術大学院大学(2)

#### 本科卒業—大学3年編入

- 千葉大学(2)
- 高松大学(1)
- 筑波大学(3)
- 長岡技術科学大学(5)
- 電気通信大学(1)
- 北沢大学(5)
- 福井大学(12)
- 岐阜大学(3)
- 三重大学(1)
- 豊橋技術科学大学(10)
- 大塚大学(4)
- 岡山大学(1)
- 広島大学(1)
- 近畿国立大学(1)
- 天理大学(1)



## 国際交流の活性化

### \* コミュニケーション手段としての実用英語技術の習得

- 読み書き中心から意思伝達能力の育成に
- 授業内容の変更と教授方法の精査・改善

### \* 研究活動を通じた交流

- 国際学会への積極的参加 (昨年実績)
  - ISATE (教員2、学生1)
  - ISTS (教員2、学生2)

### \* 異文化理解・交流のための体験

- 海外研修旅行の推進(2学科)
- 提携校との学生交流
- 海外インターンシップへの参加



## 海外提携校

### • 高専機構として

- \* 香港 VIC
- \* 台湾 国立聯合大學、国立高雄第一科技大學、  
國立台北科技大學、中州科技大學、正修科技大學
- \* タイ キングモンクット工科大学
- \* シンガポールおよびインドネシアのポリテクニカ  
学生の相互派遣(～2週間程度)

### • 本校独自

- \* オーストラリア パララット大学  
隔年でお互いに学生を派遣
- \* タイ ソンクラー大学(工学部)  
学生の相互派遣(1～2ヶ月程度)



## 留学生受け入れ状況(H25)

3年:マレーシア1名、インドネシア1名

4年:マレーシア1名、モンゴル1名

5年:マレーシア1名、モンゴル1名



留学生研修会(三重、H24.12)

留学生との懇談会(H25.1) 福井高専

## 自己評価:A

教務の統括する範囲は多岐に渡るため、自己評価を一言で述べることは難しい。

状況に対する現状認識と課題の抽出による改善のための取り組みは、**PDCAの考えに即し適切に機能しており、実効が上がっていると判断される。**



## 専攻科関係



## 説明の流れ

- 専攻科の概要
- カリキュラムの特徴
- 進路
- 中期計画
- 将来計画と重点課題
- 点検評価



## 専攻科とは

- 高等専門学校における教育の基礎の上に、清新な程度において工業に関する**高度な専門的知識と技術**を教授し、その**研究**を指導することを目的とする。
- 大学評価・学位授与機構の審査により**学士号**取得。
- 本科4.5年のカリキュラムを加えて、技術者教育プログラム「環境生産システム工学」(融合・複合分野: JABEE認定プログラム)を実施。**技術士一次試験免除**、**国際的な技術者資格を将来得ることができる**。

研究ができる技術者の養成



## 専攻科の定員と修了要件

### 定員(1学年) 20名

生産システム工学専攻(12名)

出身: 機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科

環境システム工学専攻(8名)

出身: 物質工学科、環境都市工学科

### 修了要件

2年以上在学し、62単位以上の修得

「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成



## 専攻科の現況

### 在籍者数

1年生: 20名 2年生: 25名 計45名

### 修了者数

H24年度: 25名 (JABEE修了: 25名)

### 志願者数

H25年度: 27名 H26年度: 38名

H26年度入学予定数 28名



## 専攻科の特徴

- 大学受験を経験せずに**学士**(授業料は本科と同じ)  
高専5年間の教育課程を経験したことが重要
- 3年間の**研究活動**  
**修士**修了者と同じ研究期間
- 他の**技術分野**の習得  
**多様な社会**に対応できる



## 目指すエンジニア像と学習教育目標

目指すエンジニア像: [得意とする専門分野を持つことに加え、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者]

### 学習・教育目標大項目

- JA 地球的观点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
- JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
- JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。



## カリキュラム

一般科目6単位開講、4単位以上修得  
専門共通科目33単位開講、25単位以上修得  
専門展開科目45単位開講、33単位以上修得  
(大学単位)

非常勤講師による授業  
(技術士、弁理士、NPO理事長、OBの起業家等)

約1ヶ月のインターンシップ(1年生全員)

北陸技術交流テクノフェアでの技術シーズ発表会  
学会発表



## 特徴的な授業

### 特別研究

学外の技術者・研究者の前での発表

### 現代英語

外国人講師の前での英語プレゼンテーション  
(TOEICスコアアップに加えて)

### デザイン工学、創造デザイン演習

エンジニアリング・デザイン能力の向上を目指す  
問題発見、制約条件、複数案の提案  
技術者と学生自らが接触する



## H25専攻科における主な年間行事

- 4/ 4 専攻科オリエンテーション
- 4/10 特別研究中間発表会
- 5/25 専攻科入試 推薦選抜
- 5/31 大学院訪問
- 6/22 専攻科入試 学力選抜(前期)
- 夏季休業中: インターンシップ
- 9/24~27 学位授与機構申請書学内受付
- 10/15 インターンシップ報告会
- 10/16,17,18 北陸技術交流テクノフェア参加・発表
- 10/27 大学院説明会
- 11/23 専攻科入試 学力選抜(後期)
- 12/15 学位授与機構小論文試験
- 2/14 特別研究発表会



## 海外へ

- 高専機構海外インターンシップ: ベトナムへ1名
- ISTS2013 (International Symposium on Technology for Sustainability 2013): 香港へ2名
- 技術英語研修: シンガポールへ1名
- 福井高専海外インターンシップ(PSU): タイへ2名
- 海外研修派遣制度: 東南アジア諸国へ1名



## 協定等

- 福井大学大学院  
工学研究科と教育研究交流に関する協定  
協定校推薦
- 北陸先端科学技術大学院大学  
推薦入学に関する覚書
- 早稲田大学大学院  
情報生産システム研究科と推薦入学に関する覚書
- 福井県内大学及び短期大学  
単位互換協定
- 放送大学  
単位互換協定



## 進路

- 大学院進学
- 大学生と競って就活
- 高専出身者としての就活



## 就職・進学

求人倍率: 43.6倍

就職先(県内就職: 8名、県外就職: 11名)

アートテクノロジー、越前市、酒井化学、日東シンコー、福井村田製作所、KBサーレン、レンゴー、東芝メディカルシステムズ、飛島建設、西島製作所、富士ダイス、パナソニック、富士ダイス、フジクラ etc.

進学先(3名)

奈良先端科学技術大学院大学、金沢大学大学院、福井大学大学院



## 中期計画

本科からの継続した研究指導体制を強化し、**専門領域を深化**させるのみならず、**専攻の枠組みをも越えた融合複合的な工学技術教育の展開**を図る。また、各種学会主催の講演会・技術交流会や**長期インターンシップ**への積極的参加を促すとともに、**専攻科生と企業との共同研究**を促進し、**技術ニーズや求められる技術者像を明確に認識できる機会**の増加を図る。さらに既設の海外派遣制度を充実させ、**海外企業技術者や大学研究者等との交流・相互理解**を通して**国際化**に対応できる能力を涵養する。



## 将来計画

### ✓研究能力の向上

研究期間3年を使い、研究発表数を増加

### ✓エンジニアリング・デザイン能力の向上

企業との連携による共同教育

### ✓社会のグローバル化に対応した人材の育成

語学能力と異文化理解能力の向上

### ✓専攻科入学者の質の向上

継続した7年一貫の技術者教育



## 重点課題

### ✓目指すエンジニア像と学習・教育目標の周知

### ✓他の研究機関との連携

福井大学大学院工学研究科との協定

### ✓カリキュラムや授業内容の改善

「創造デザイン演習」1単位増

「技術者英語コミュニケーション演習」1単位の新設

### ✓海外派遣活動への積極的参加

海外インターンシップ、技術英語研修



## 自己点検評価 1

・平成26年度専攻科入学予定者は28名であり、平成25年度入学者の20名を上回った。昨年度の志望者減を受けて学生への説明会を実施したこと、また、今年度5年担任の方々の進路指導によることも大きい。以上のことから、目指す**エンジニア像の周知及び本科との連携**ということに関しての達成度評価はAと判断する。

・福井大学大学院工学研究科との教育研究に関する協定を結び、協定校推薦による大学院進学者もいることから、他の**研究機関との連携**に関しての達成度評価はAと判断する。



## 自己点検評価 2

- 今年度入学生からエンジニアリング・デザイン教育及び語学力の向上のための改正を行ったカリキュラムを実施している。創造デザイン演習では、**地域企業と連携**を行った課題に取り組むことができたことから、その達成度評価はAと判断する。
- 今年度の海外派遣学生数は上述の通り合計7名であった。積極的に海外研修を希望する学生が増えてきている。また、派遣学生の本科生及び専攻科生への報告会も専攻科説明会と同時に行った。したがって、**専攻科生の海外研修**に関する達成度評価はAと判断する。



## 今後の方策

- **新方式の学士申請**への対応
- 今年度の専攻科入学者の減少を受けて、本年度専攻科入試に向けて昨年度から本科生への専攻科説明会を実施してきた。今後も継続して行うとともに本科の進路指導を担うクラス担任にも積極的に**専攻科説明**を実施する。
- 福井大学大学院工学研究科研究室訪問や福井大学教員による講演会を企画し交流を深めることなどを通して、専攻科生の**研究へのモチベーション**を高める方策を検討する。



## 今後の方策

- **エンジニアリング・デザイン能力及び語学力向上**のために単位増及び新設した科目(創造デザイン演習、技術者英語コミュニケーション演習)の内容充実を図る。
- 国立高専機構主催の海外インターンシップ及び技術英語研修や、その他の**海外研修**制度にも積極的に参加するように専攻科生に促す。海外インターンシップなどの派遣学生に選ばれるにはTOEICスコアが1つの基準となっているため、今後もTOEIC IP試験の校内実施と受験料補助を継続する。



## 学生指導関係



## 学生指導の基本方針

1. 毎日、規則正しい生活を送ること
2. よき学生としてのマナー（社会規範）を身につけること
3. 自ら考え、自ら進んで学ぶ姿勢を示し、真摯な態度で学業に取り組むこと
4. 文化・芸術・スポーツに親しみ教養を高めること
5. 自身の将来像を描き、その実現のために計画的に行動すること



## 学生と担任制度

- ・ 学生生活全般の指導（友人関係、生活行動の把握、授業出欠の点検、健康観察、各種届け出の指導等）
- ・ 学業成績、悩み等についての個別指導
- ・ 特別活動の企画・実施（1年～3年）
- ・ 学校行事の指導・企画・引率  
新入生オリエンテーション（1年）、遠足・交流会、校外研修（2年）、工場見学旅行（3年）、インターンシップ（4年）
- ・ 進路（就職・進学）指導  
キャリア教育セミナー、就職セミナー、大学説明会など
- ・ 保護者懇談会の実施（1年～5年）



## 担任制度の充実

（アクションプランⅠ-1-(5)-①）

- ・ 担任制度の継続  
→ 学生に対するきめ細やかな対応  
「教員研修（クラス経営・生活指導研修会）」  
毎年度教員を2名ずつ派遣  
「東海・北陸地区国立高等専門学校学生指導力向上教員研修会」  
平成23年度 担任予定者3名、アドバイザー2名派遣  
平成24年度 担任予定者4名、アドバイザー2名派遣  
平成25年度 担任予定者3名、担任経験者2名、アドバイザー2名派遣
- ・ 学年主任制度の確立  
→ 学年での情報交換、進路指導室との連携  
キャリア教育活動の早期開始



## 担任制度の支援

（アクションプランⅠ-1-(5)-①）

- ・ 学生生活サポートのための講演会  
1年生 → 服育講演会、性教育に関する講演会  
2年生 → 服育講演会、煙草の害に関する講演会  
3年生 → 服育講演会、交通安全に関する講演会  
4年生 → 薬物乱用に関する講演会  
5年生 → 税と年金に関する講演会



## 学生の指導

全教職員で取り組んだ内容

- ・ 校門指導・交通安全指導（駅前、学生駐車場）  
→ 全教員、前期開始、後期開始（各約2週間）
- ・ 校内巡視（節電パトロールを兼ねる）  
→ 定期試験前後（空き教室等をチェック）
- ・ 服育・安心安全の指導  
→ TPOにあわせた服装指導

H23：女子学生の制服のリニューアル



## メンタルヘルス関連① (アクションプランⅠ-1-(5)-①)

### ・学生指導担当教職員研究会の開催

- H21年7月:「発達障害の理解と対応」(50名)
- H22年7月:「ストレスと上手につき合おう」(38名)
- H23年8月:「ストレスと上手につき合って心も体も健康に」(54名)
- H24年2月:「学生の自殺防止に関する研修会」(58名)
- H24年7月:「障害に対する基本的知識と障害学生に対する教育支援の実践例」(62名)
- H25年7月:「発達障害と生きていく-支援のあり方について-」(78名)
- H25年9月:「Q-Uテスト研修会」(30名)
- H26年2月:「心の健康と病気について」(69名)



## メンタルヘルス関連② (アクションプランⅠ-1-(5)-①)

### ・メンタルヘルス関連の充実

- H22年度:学習支援のための支援室
- H23年度:保健室要員の増員
- H24年度:保健室の看護師2人体制
- H24年度:カウンセラー来校週3回に
- H25年度:ハイパーQ-Uテスト、高専アンケート(全学生対象)
- H25年度:専門医との業務契約(奇数月の第1水曜日に来校)

インターカーとしての保健室要員の増員  
各種講習会派の積極参加



## 感染症対策の充実

### ・麻疹対応(H19～)

麻疹抗体検査と校費補助によるワクチン接種の助奨  
H25年現在、麻疹耐性率95%以上を確保  
(学校組織として)

### ・インフルエンザなど感染症対応(H22～)

状況に応じきめ細かな対応  
手指用消毒液の設置(校舎入口、教室前など)  
教職員に対してはインフルエンザの予防接種を推奨など



## 学校行事①:様々な体験活動の継続

### ・新入生オリエンテーション

奥越高原青少年自然の家  
伝統産業・地場産業体験



親交を深めあつた新入生オリエンテーション



## 学校行事②:学生会活動の奨励

- ・体育祭
- ・弁論大会
- ・高専祭(水防訓練:H25)



## 課外活動①:クラブ活動の奨励 (アクションプランⅠ-1-(2)-⑤)

クラブ数:体育系21サークル、文化系・同好会27サークル  
学生加入数:約800名、顧問教員数:延べ92名

- ・北陸地区高専体育大会  
H21:3位、H22:3位、H23:3位、H24:2位、H25:2位
- ・全国高専体育大会  
H21:男子テニス団体優勝・シングルス準優勝・ダブルス3位、  
サッカー準優勝、陸上走り高跳び3位  
H22:男子テニス団体優勝・シングルス準優勝、  
陸上走り高跳び3位  
H23:男子テニスダブルス優勝・シングルス3位  
H24:男子テニス団体3位・ダブルス準優勝  
H25:女子卓球シングルス優勝・ダブルス準優勝



## 課外活動②:コンテストの奨励と支援

(アクションプランⅠ-1-(2)-⑤)

### ものづくり・アイデアのかん養

ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト  
デザインコンペティション  
歯磨きロボットコンテスト  
小水力発電アイデアコンテスト  
室内飛行ロボットコンテスト  
ロボカップジュニア  
英語スピーチコンテスト等

全国高等学校総合文化祭  
近畿高等学校総合文化祭



## 課外活動③:福井高専キャンパスプロジェクト

(アクションプランⅠ-1-(2)-⑤)

### 学生のものづくり志向のかん養

学生が自ら作り、自らそれを利用することで、  
生活しやすい福井高専キャンパスにすることが目的



## 安全管理と施設の充実

- ・ クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの改訂 & 年間練習計画の作成 (H16年4月より)
- ・ 課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備  
AED(自動体外式除細動器)を学内4箇所に設置  
製氷機の設置(保健室、体育館)  
各種施設の改修および耐震化工事等
- ・ クラブ活動の安全管理に関する講習  
H17年～25年:  
「AEDを用いた救急救命法実習」  
H21:26名、H22:18名、H23:37名  
H24:39名、H25:29名



AED実習風景

## ボランティア関連

(アクションプランⅠ-1-(2)-⑥)

### ・ ボランティア活動の奨励

- クリーン大作戦: H16～H25
- 菊花マラソン障害者の部伴走支援: H22, H23
- 保育ボランティア: H24, H25



- 福井県大学連携リーグ東日本大震災  
災害ボランティア: H23
- 被災体験(防災リーダー): H24
- 鯖江市屋根の雪下ろし  
ボランティア: H25

## 5年一貫教育の利点を生かした 人格形成の人間教育を実践

- \* 全教職員一丸となつての学生指導
- \* 担任制度の充実
- \* クラブ活動・学生会活動への積極参加
- \* 各種コンテストへの参加奨励
- \* メンタルヘルス・安全管理・施設の充実
- \* ボランティア活動への自主的参加

## 改善課題とその方策①

- ・ (部活動・課外活の活性化) 学生表彰の規定の本格運用、全校集会による表彰によって部活動・課外活動の活性化を促す。部活動活性化のワーキンググループの活動による議論を促進する。
- ・ (学生生活の活性化) 福井高専キャンパスプロジェクトを継続実施することで、学生全体の活動の活性化する。

## 改善課題とその方策②

- (ボランティア活動の奨励)学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動について活動支援を継続する。
- (教職員のスキルアップ)学生のメンタルヘルス等にかかわる教職員のスキルアップのため、研修会などに、継続的、積極的に参加する。



## 寮務関係



## 福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮・西寮の4居住棟と食堂事務棟・浴室などからなる。男子寮として南・東・西の3寮、女子寮としては北寮が当てられている。定員は留学生居室を含めて245名となっている。

学寮は遠隔地からの学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置されている。全教員が交替で寮監として泊り、寮生との触れ合いを大切にする教育寮として位置付けられている。



## 管理運営組織

- 学寮運営委員会
- 寮務主事団(7名)
- 学生課学生生活係(2名)
- 寮監(平日2名宿直、休日1名宿日直)
- 寮生会役員(約20名)
- 寮内はフロア毎に11区に分割



## 寮生数

平成26年3月1日時点

| 男子      |        | 女子      | 合計                      |        |
|---------|--------|---------|-------------------------|--------|
| 178名    |        | 45名     | 223名                    |        |
| 1年      | 2年     | 3年      | 4年                      | 5年     |
| 55(12)名 | 50(9)名 | 52(13)名 | 27(5)名                  | 39(6)名 |
| 福井県     | 滋賀県    | その他の県   | マレーシア<br>インドネシア<br>モンゴル |        |
| 148名    | 59名    | 10名     | 6名                      |        |



マレーシア



インドネシア



モンゴル



## 学寮の施設-1-

南寮・・・男子77名定員(1階は留学生が居住)



調理室 シャワールーム (LAN,空調完備)  
チューター居室



西寮・・・男子25名定員  
(4人部屋と1人部屋)



## 学寮の施設-2-

北寮・・・女子52名定員(個室と2人部屋)

調理室 シャワールーム



東寮・・・男子90名定員(全室個室)



## 学寮の施設-3-

付属施設  
《管理事務室・寮監室・食堂・浴室》



食堂(空調完備)



浴室



## 女子寮のセキュリティー

カードキー式電子ロックと

インターホン



## 学寮運営の基本方針

1. 安心・安全な居住と良い学習環境の提供 (学寮の管理と質の維持)
2. 各寮生への個別の生活指導、寮生の自治能力の向上と自主活動への支援 (生活指導と寮生会支援)
3. 国際交流推進の一端を担う、開かれた寮としての諸活動



## 1. 学寮の管理と質の維持

- (1) 施設・設備面での充実
  - ◇ 全居室へのエアコン設置(H25年度より)
  - ◇ 学寮食堂厨房機器の更新(シンク・水切り台、冷蔵庫、スチームオープン等更新)
  - ◇ 南寮玄関防雨・防雪仮囲い(H24年度)
  - ◇ 東寮・北寮自転車小屋増設(H24年度)
  - ◇ 西寮北側渡り廊下屋根天井配管塗装 等
- (2) 管理システムの改善
  - ◇ 寮監と関係教職員との日常的な連携
  - ◇ 夏の防災訓練の実施(H23年度より)
  - ◇ 救急救命講習会の実施(H24年度より)
- (3) 寮生保護者会の設立(H24年10月)



## 2. 生活指導と寮生会指導

- (1) 日常生活における教職員からの指導
  - ◇ 寮監による毎日の点呼と巡回のシステム
  - ◇ 寮生保護者懇談会と個人面談(毎年7月実施)
  - ◇ 寮内の清掃等の当番の確認(寮生会)
- (2) 寮生会が中心となる各種行事への支援
  - ◇ 寮生総会(年間数回)
  - ◇ 寮祭(寮生会最大のイベント、毎年5月)
  - ◇ 短期留学生の歓迎会(H23年度より)
  - ◇ 球技大会、クリスマス会、5年生を送る会
  - ◇ 寮生会誌「日野」の発行(毎年度末)



## 3. 国際交流、開かれた寮としての活動

- (1) 短期国際留学生の受け入れを実施
  - ◇ タイPSUより2名の女子学生を受け入れ(H23年度)
  - ◇ 香港VTCから4名の女子学生を受け入れ(H24年度)
  - ◇ 寮生チューター、女子寮生の中での交流も行った
  - ◇ 受け入れの際のマニュアルを整備
- (2) オープンキャンパス等での寮見学会の実施
  - ◇ 毎年3回実施、内1回は寮生による案内
- (3) 学生寮のHPの充実
  - ◇ 行事等の後に概要と写真を掲載



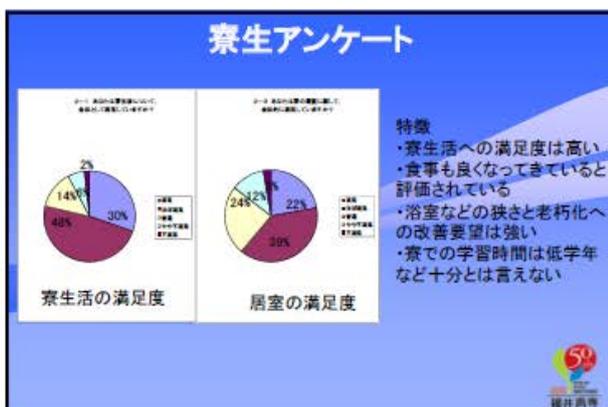
### 今年度の行事

|    |  |     |  |
|----|--|-----|--|
| 4月 | 開寮<br>入寮式・オリエンテーション<br>新入寮生歓迎会<br>寮生役員会<br>寮生総会                  | 10月 | 全国高等学校寮生委員会<br>寮生総会  |
| 5月 | キャンパスウォーク2011(学寮見学)<br>寮祭<br>寮生役員会<br>地域ボランティア(吉野瀬川清掃)           | 11月 | スポーツ大会   |
| 6月 | メンタルヘルス講習会(2回)   | 12月 | クリスマス会<br>救急救命講習会・<br>大規模(寮祭準備)<br>閉寮(冬休休業)                |
| 7月 | 学寮総会・保護者懇談会  | 1月  | 開寮<br>次年度入寮生募集<br>テーブルマナー講習会(3学年)                          |
| 8月 | 防災訓練<br>オープンキャンパス(学寮見学)<br>部員替え移動(1年生)<br>部員点検・学寮大掃除<br>閉寮(夏休休業) | 2月  | 次年度寮生役員選挙<br>寮生総会(役員総議)<br>5年生を送る会<br>寮生会誌「日影」発行<br>新入寮生募集 |
| 9月 | 女子中学生と保護者のための体験学習<br>(学寮見学)<br>開寮<br>寮生総会                        | 3月  | 部員替え<br>閉寮   |



- ### この5年間の自己点検と評価 1
- 寮監と関係教職員との連携 (A)  
◇ 対面と寮監日誌による情報交換の実施
  - 寮生の安全確保の取り組み (A)  
◇ 消火栓放水を取り入れた防災訓練の実施、保存食と水の配布  
◇ 救急救命講習会の定期的実施
  - 国際交流の推進 (A)  
◇ 短期留学生の受け入れ経験
  - 施設の改修等 (B)  
◇ 優先順位をつけて行なっている  
◇ 改修すべき箇所もまだ多い

- ### この5年間の自己点検と評価 2
- 寮生指導 (A)  
◇ 役員会を中心として、寮祭をはじめ様々な行事を企画・立案・実行できた  
◇ 役員を中心学年を5年生から4年生へと移した。  
5年生の進路選択と低学年指導の両立を考慮
  - 寮生指導 (A)  
◇ メンタルヘルス講習会等を実施し心のケアに取り組んだ  
◇ 寮生アンケートでは概ね寮生活に満足
  - エアコンの利用に関係する事項 (A)  
◇ 寮生保護者会の設立(H24年)  
◇ エアコン利用の指針の作成



- ### 今後の課題 1
- 寮生からの要望を参考に、より良い生活・学習環境の提供を行なう  
◇ 男子浴室の狭さ  
◇ 1年生の学習時間の確保、上級生からの支援
  - 安全な寮生活の確保を更にすすめる  
◇ 男子寮のセキュリティの強化  
◇ 寮内の自主防災組織を毎年確認し防災意識を向上させる  
◇ 防災訓練や救急救命講習会の継続
  - 寮生会への指導と寮生指導  
◇ 寮生会役員と寮務主事団との懇談会  
◇ 寮生総会による全寮生への指導  
◇ 区長会への支援

## 今後の課題 2

4. 寮からの情報発信の工夫
  - ◇ 寮生保護者の安心感
5. エアコンの設置に伴う寮生の健康確保と寮生保護者会の運営協力
  - ◇ エアコンの利用の指導方針の策定
  - ◇ 寮生保護者会との緊密な連携
6. 将来的な学生寮の構想を作成すること
  - ◇ 入寮希望者数の増加への対応
  - ◇ 全体的な建物の配置
  - ◇ セキュリティーシステム、アメニティスペースの確保など



# 企画関係



1. 産業界や地域社会との連携
2. 施設・設備の整備
3. 高度化再編・整備



## 地域貢献

▶子どもフェスティバル、丹南産業フェアやものづくり博覧会等への出展



丹南産業フェア(武生商工会議所主催)



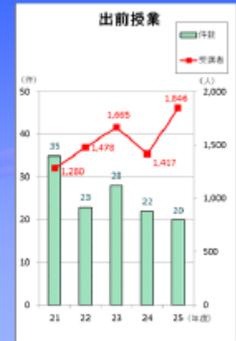
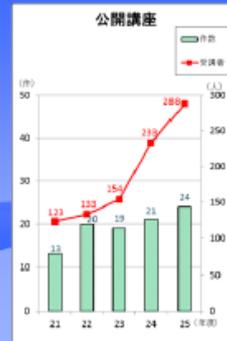
ものづくり博覧会(鯖江商工会議所主催)

子どもフェスティバル  
(越前市いまだて芸術館主催)



## 地域貢献

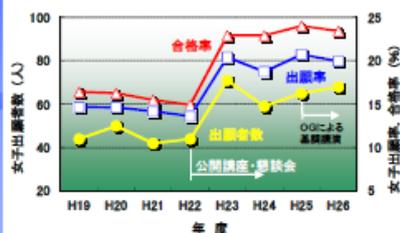
▶公開講座、出前授業



## 地域貢献

▶女子中学生と保護者のための公開講座・懇談会

H25年度受講者数  
中学生66名(2年生1名、3年生65名) 保護者35名



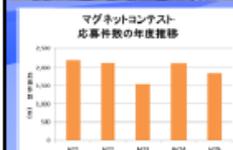
## 地域貢献

▶マグネットコンテスト、歯磨きロボコン、きのくにロボコン、越前市中学生ロボコン



歯磨きロボコン

きのくにロボコン

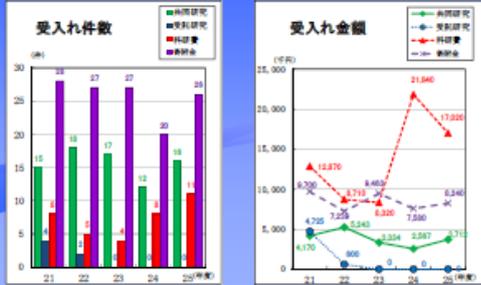


越前市中学生ロボコン



## 外部資金の受入れ状況

科学研究費助成事業、共同研究、受託研究  
及び奨学寄付金



## 主な施設整備の状況 (H20～25年度)

| 年度  | 施設名         | 整備内容           |
|-----|-------------|----------------|
| H20 | 専攻科棟        | エレベータ取設        |
|     | 機械工学科棟      | 内外部改修          |
|     | 本館          | 内外部改修、耐震補強     |
| H21 | 管理棟         | 内外部改修、耐震補強     |
|     | 電気電子工学科棟    | 内外部改修、耐震補強     |
|     | 物質工学科棟      | 内外部改修、耐震補強     |
|     | 学芸中央棟       | 内部改修           |
|     | 学芸(北棟)      | 浴室改修           |
| H24 | 環境都市工学科棟    | 内外部改修、耐震補強     |
|     | 学芸          | 空調電源等設備、空調設備設置 |
| H25 | 図書館         | 内外部改修          |
|     | 地域連携テクノセンター | 内外部改修、耐震補強     |

## 施設整備の状況



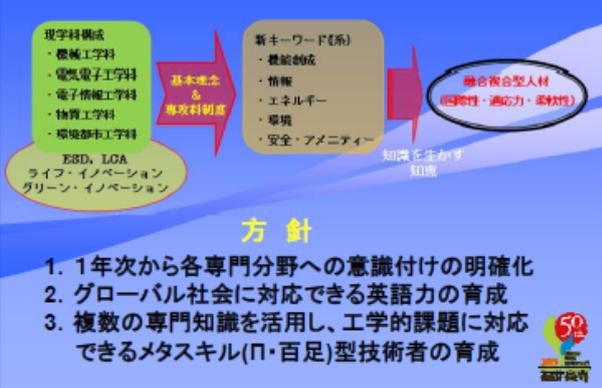
## 新規に導入された教育研究関連機器



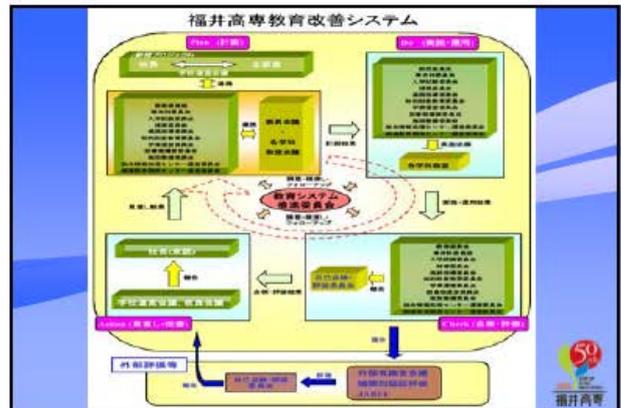
平成24年度から25年度に導入された教育・研究関連機器一覧表

| 番号 | 設備名           | 分野    | 業種・産業     | 設置場所             |
|----|---------------|-------|-----------|------------------|
| 1  | 精密万能試験機       | 素材・加工 | 金属製品・材料   | 管理棟管理棟管理棟        |
| 2  | 歯車試験機         | 計測・制御 | 機械        | 実習室G<br>機械工学科    |
| 3  | 高精度CNC三次元測定機  | 計測・制御 | 機械工学・生産工学 | 創成教育ついで<br>機械工学科 |
| 4  | レーザー加工機       | 素材・加工 | 生産工学・加工   | 卓前アトリエ1<br>機械工学科 |
| 5  | 超精密表面形状・粗さ測定機 | 素材・加工 | 生産工学・加工   | 機械工学科            |

## 高度化再編・整備



# 自己点検・評価委員会 としての総括



## 自己点検・評価報告書

### ・構成:

- 全学的に関する事項
- 各学科・教室等に関する事項
- センター等に関する事項
- 委員会等に関する事項
- 自己点検・評価委員会としての総括

### ・内容:

- 各部署での現状、点検・評価、改善課題・方策



## 全学的に関する事項

### ・進路指導関係

インターンシップ、キャリアガイダンス、合同企業説明会など各学年に応じたキャリア教育を実践していることは評価できる。

### ・国際交流関係

プリンスオブソンクラ大学工学部(タイ)との交流協定の締結、海外インターンシップ、姉妹校との交流事業を通じ成果を上げている。

### ・管理運営・財務関係

管理運営・財務が効率的に行われている。しかし、会計検査院の指摘事項の再発防止策が必要である。



## 各学科・教室等に関する事項

### ・本科の専門5学科

基礎学力の定着とともに創成科目や実験実習科目など**体験型**科目を設け、実践的で国際化・高度情報化社会に対応できる**技術者教育**を行っていることが認められる。

また各学科は特色ある教育を実施し、進路先も関連業種・分野に就職・進学させ、進路指導は適正に行われている。

複数の学科間での**新しい教育の試み**(サッカーロボット競技会)は今後の発展が期待できる。

教育エネルギー賞(日本電気協会主催)の**最優秀賞**の受賞は評価できる。



## センター等に関する事項

### ・学生相談室

カウンセラーの来校回数を増やし、精神科医とも連携を図り、学生・教職員のメンタルヘルス対応に努めている。

### ・総合情報処理センター

授業や放課後の教育用電子計算機システムの利用管理が適切に行われ、校内LAN・基幹系サーバも円滑に運用されている。

### ・地域連携テクノセンター

各種イベントへの出展、主催・共催事業を積極的に開催して地域貢献を行っており、また共同研究の件数・金額は改善傾向にある。



## 委員会等に関する事項

### ・教育システム推進委員会

本校の教育のPDCAサイクルの調整を行い、教育の実施状況を把握し、教育システム推進に効果的な役割を果たしている。

### ・知的財産教育委員会

学生や教職員への知財教育として講演会等を実施しているが職務発明につながらず、その支援体制の構築が必要である。

### ・安全衛生委員会

月1回校内巡視により安全な職場環境の維持を図り、産業医等と連携しながら教職員の健康管理を適切に行っている。



## 平成 25 年度「外部有識者会議」報告書

発 行 福井工業高等専門学校

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

電話 0778-62-1111

FAX 0778-62-2597